

□議員名：杉本 保喜

1 国土強靱化地域計画について

論点	「計画の位置付け」において、本市の国土強靱化地域計画が上位計画に位置付けられているが他の計画とは何か。
回答	本市の地域計画では分かり難いと思うが、国の基本計画にある中の国土強靱化計画と本市の総合計画が調和を持った同レベルの計画として、その下に地域防災計画等の計がある。

論点	アクションプランを示し、各年度の目標を明確にすることで計画の進捗状況が分かり、途中で見直し事項が明らかになるのではないか。
回答	各種事業の実施は、総合計画の実施計画で行うものと位置付けていることから、総合計画との調和を図る中で具体的なことをやっていくという形で考えている。ここでアクションプランを作ると実施計画との明確さが分かり難くなるとも考えられますので、本件は推進方針を定めるに留めている。

論点	I C T - B C P（情報通信技術業務継続計画）を策定する必要があると記載されているが、最優先で取り組むべきものではないか。
回答	I C T - B C Pについては、本市では定めていないが、B C Pは平成 28 年 3 月に定めたが、事業費の関係もあり進んでいない。今後、国のガイドラインを参考にしながら、今年度中の策定を目途に準備を進める。

2 総合計画における本市の水産業の振興について

論点	総合計画基本施策 30 の基本方針に「担い手の育成・確保に努めるとともに、漁業の生産基盤の整備を進めます」とあるが、具体的な施策はあるか。また、施策を進める上で問題点はあるか。
回答	水産流通の基盤であり、漁業者の就労場所でもある漁港の整備を図り安全性を向上させ、担い手の受け皿である漁港の環境整備を進める。また、浜の活力再生プラン「浜プラン」を平成 26 年から活性化のための改革として取り組んでいる。

論点	「栽培漁業や資源管理漁業を推進するなど、育てる漁業の取り組みを継続して進める必要がある」とあるが、具体的な施策はあるか。また、施策を進める上で問題点はあるか。
回答	昨年は、鮎、ウナギ、キジハタ等の放流を補助した。また、宇部・小野田・山陽地域栽培漁業推進協議会では、クルマエビ、ガザミの放流事業をやっている。ナマコの資源管理、蓄養水槽を使ったガザミの販売調整等の取り組みをやっている。

論点	経営基盤の強化として、「中核的な漁業者の育成、新規就業者対策に取り組むほか、融資制度の充実など経営基盤の強化を図る」とあるが、具体的な施策はあるか。また、施策を進める上で問題点はあるか。
回答	本市には漁業近代化資金流通等の条例があるが、3年間の実績はない。県や漁協等関係機関との連携により経営基盤の安定化支援を継続する。また、関係者との意見交換を重要視して振興に努めたい。